

開発 NGO・環境 NGO ヒアリング調査票

1. フェースシート

a. 団体概要

組織名	アジア植林友好協会		
所在地	西東京市田無町 3-5-4		
TEL・FAX	0424-51-6120 046-465-7241		
URL	http://www.agfn.org/		
設立年月日	2002	主務官庁	東京都庁
代表者	宮崎林司	責任者	宮崎健人
事業対象分野	自然保護・国際交流		
事業形態	植林事業、国際交流事業		
事業目的	アジア地域での植林活動を通じての自然環境と民生向上への貢献		
事業内容 (うち海外活動)	インドネシアでの植林活動		

b. ヒアリング

ヒアリング実施日	2010年2月23日	時間	15時～16時
対応者名	宮崎林司さん（代表理事）		

2. 支援地域情報

a. 支援対象地域（アジアの都市名・村名）

活動対象国	インドネシア
現地事務所所在地	
現地の協力団体	Yayasan Bali Hijau Lestari、NGO バリ緑化協会
支援地域	東カリマンタン州バリクパパン市 バリ島
当該地域の抱える問題 (支援の目的)	【バリクパパン市】バリクパパン市近郊の森は水がめの役割を果たしているが、伐採、焼畑、山火事などの被害により、森林機能を失いつつある状況にある。 【バリ島】自然災害や家具・木工品などを作るための過剰伐採によって森林が年々減少している。
貴団体の支援内容	【バリクパパン市】 ① アグロフォレストリー（農林混合）の経営モデルをつくる。 ② 林業の育成を目指す。 ③ 国立ムラワルマン大学の演習林（ブキツスハルト）の二次林および林業公社の保護林（ブキツバンキライ）を対象として地場の樹種の「樹下植林」を行い、天然林の再生を目指している。

	<p>【バリ島】</p> <p>2007年3月よりキンタマーニ郡の過去の火山爆発により荒廃地となったバトゥール湖の周辺地に水源涵養林を造成に協力して、地場の樹種の植林を行っている。</p> <p>いずれの植林も基本的には「森林の劣化」と「森林の減少」に対応する事を目的としている。これ以上の森林減少を止めるためには、</p> <p>① 寄付による劣化した森林のエンリッチ</p> <p>② 森林が壊された土地におけるコミュニティー林の育成により林業を育成して、持続可能な森林利用を勧める事</p> <p>を目指している。①と②を同時に実行できるプロジェクトとして、「生命の森づくり」「2イン1」（2本植えて、1本を伐採利用）を進めている。</p>
--	--

3. 支援地域の環境（生物多様性）の状況等

a. 支援活動そのものによる環境の変化、及びその具体的な要因

バリクパパン市)

林業と農業を融合したアグロフォレストリーによる“コミュニティーフォレスト”の造成事業を行っている。水源となる森へ補植を行い、周辺住民の収入向上のための、収益の期待できる樹種「チーク」を周辺住民の土地に植林している。

バリ島)

現金収入の機会が乏しく、アジア植林友好協会が植林を行う際は、地元の人を雇い、作業代を支払っている。11～3月の雨期のみ。

バリ州政府が立ち上げた「2010年緑のバリ」プロジェクトに2007年5月から参加し、バトゥール湖畔ペネロカン地区2,075ヘクタールの緑化を目指す。

b. 支援以外の要因による環境の変化、及びその具体的な要因

バリクパパン市)

建築関係、光ケーブルの設置、公共事業などの仕事が増え、収入の機会が増えている。

バリ島)

バリ州政府は『2010年緑のバリ』プロジェクトを立ち上げ、国内外を問わず協力を呼びかけている。このプロジェクトは、島の総面積の22.59%しかない現在の森林面積を、生態系の理想値といわれる最低30%以上まで取り戻すという内容である。

バリ島の重要な水源の一つであるバトゥール湖では、度重なる火山の噴火によって、湖畔の森林が消失し、水位の低下に悩まされている。

仕事不足のため人々には現金収入がなく、木を伐採して現金収入を得ている人もいる。

c. 当該プロジェクトに取り入れている環境配慮・貧困社会配慮は何か

森林が違法伐採や焼畑による山火事などで失われつつある。インドネシア・カリマンタン島で起こった大火災では、570万haという広大な熱帯雨林が焼失した。

ここには絶滅危惧種のオランウータンが生息しており、火災で多くの犠牲をだした。また、本来CO2を吸収する働きのある森林が燃えたことで、逆に大量のCO2が放出されてしまった。

植林活動を通じて、インドネシアの熱帯雨林を再生・保護していくことに加え、地域住民の自立支援を支える収入向上事業などを行っている。

4. 他団体との協力の意向

a. これまで他のNGO・専門家との連携があったか

「2イン1」（2本植えて1本を伐採）というプロジェクトに関して、FOEの専門家に内容を見てもらった。

b. 貴団体が支援している地域で、もう少し余裕（資金、人的リソース、時間など）があれば、着手したいと思っている環境改善に係る取組はあるか

あぶらぎり（ジャトルファ）は3年目から実がとれ、燃料になるので、市場に流通させることができるよう軌道にのせたい。

c. 支援対象地域（村）において、環境NGOと協力して行いたいことはあるとしたら何か。あるいは、環境NGOから学びたいノウハウはあるか。（←開発NGOのみ）

d. 支援対象地域（村）において、開発NGOと協力して行いたいことはあるとしたら何か。あるいは、開発NGOから学びたいノウハウはあるか。（←環境NGOのみ）

自然環境を体験できるような公園の作り方。充実させるノウハウ。エコツーリズムの拠点として活用できると考えている。

カリマンタンの「ブキットバンキライ」という場所に、高さ30mの橋があり、観光名所になっているが、日本の外務省の情報では「危険度2」に指定されているため、日本からの観光客が訪れない。危険度の見直しをしてほしい。

e. アジアで活動しようとする環境NGOに対して、これまで貴団体が築き上げてきたスキルやノウハウで、応援（提供）できることはあるか（得意分野/専門分野）（←開発NGOのみ）

f. アジアで活動しようとする開発NGOに対して、これまで貴団体が築き上げてきたスキルやノウハウで、応援（提供）できることはあるか（得意分野/専門分野）（←環境NGOのみ）

植林のノウハウ。

5. 生物多様性条約締約国会議（COP10）に向けた取組み

a. 貴団体では、生物多様性保全に向けた取り組みをしているか、あるいは関心があるか失われた森林を復活させるための植林活動を行っている。

b. 生物多様性条約締約国会議（COP10）で話し合われる議題に関心があるか

日本における生物多様性の取り組みとしては里山がよく話題に上がるが、熱帯雨林にも注目してほしい。森を保護するということは、炭素を固定すること。関心を寄せてほしい。

森林の再生にはお金だけでなく時間がかかる。たとえ1500億円を支払っても、瞬時に森が再生するわけではない。

c. 生物多様性条約締約国会議（COP10）に向けて、貴団体では、何か取り組みを考えているか

特になし。